

医用情報工学科学生の韓国医療研修報告（ソウル市漢陽大学校）

医用工学部医用情報工学科 教授 長谷川 正志

医用工学部医用情報工学科では、本年より「医療情報セミナー I」科目のフィールドワークの一環として、平成 29 年 9 月 4 日～9 月 6 日の 2 泊 3 日で韓国ソウル市にある漢陽(ハニャン)大学校において医療研修を実施しました。

2 年生を対象に希望者を募り、参加は自由意志でしたが、22 名の在籍者中 12 名が参加を希望しました。出発前に 3 回オリエンテーションを実施し、学生は韓国の歴史・文化・生活習慣、日本とのかかわりから、医療に関する制度、病院の情報システム等の講義を受けたうえでの参加となりました。

研修先の漢陽大学校は韓国の名門大学の 1 つであり、医学部付属病院と国際病院を訪問しました。医学部付属病院は 13 階建の大病院で、概要説明と院内ネットワークの説明を受けました。放射線科の金(キム)教授が CT、MRI、PET 等の画像機器や放射線治療装置を詳しく説明して下さり、学生たちも熱心に説明に聞き入り、又、質問もしていました。

国際病院は海外の患者の健康診断を実施する病院で、ロシア、モンゴル、ウズベキスタンからの患者が多いという事でした。日本も今後、海外からの観光客の増加が見込まれる中で、医療についても国際化が求められます。医療特区などの制度を設けて、外国人を対象とした医療提供計画も検討されています。学生たちにとってこのようなシステムの病院は目新しく感じたと思います。

2 泊 3 日の駆け足的研修でしたが、海外が初めてという学生も多く、学びと同時に、学生生活の大きな思い出の一つになった様子でした。なお、参加学生の報告が SUMS ニュースに掲載されますので、併せてご覧ください。



放射線科で画像の院内ネットワークの仕組みについて技師の先生から説明を受けています。



金(キム)教授から放射線治療室内で、治療機器を前に最新の放射線がん治療について説明を受けています。



温かく迎えてくれた漢陽大学校医学部附属病院 金(キム)教授と記念撮影です。



漢陽大学国際病院前での記念撮影です。これから国際病院の見学です。